

キリストの苦しみ

(ヨハネ19・17〜37)

この朝は、十字架の上で残酷な惨たらしい死に方をされた方が、何故神と呼ばれ、そして私たち今を生きる人間を救うことができるのか考えてみましょう。

一、聖書の約束の実現であった

多くの人が、「キリストは特に悪いことはしていなかったとしても、人々に憎まれて殺された可哀想な人、失敗した人、挫折した人、たまたま生まれて、たまたま死んだ私たちと同じ人間」と考えています。しかしこの聖書記者は、イエスは聖書に書かれている通りに苦しみ死んだと証言しているのです。

24 聖書が成就するためだった

28 聖書が成就するために

36 聖書のことばが成就するためだった

37 聖書の別のところには…

つまり、イエスは偶然生まれて、偶然死んだ可哀想な人ではなく、神様の人類を救うというご計画が実現したというのです。では何故こんな苦しみを受けなければならなかったのでしょうか。聖書は語ります。「罪から来る報酬は死です。」(ローマ6・23)と。罪とは行いではなく状態を表します。ギリシャ語で罪は「ハマルティア」と言って「的外

れ」という意味です。神様から愛され、命を与えられ、神様といっしょに生きるために創られた人間が、神から離れている状態が「的外れ」であり罪です。

この罪は人間のあらゆる苦しみの根源です。そしてこの罪を持ったままでは、人間は永遠に神から離れてしまうという死を免れなくなりします。

この罪の問題が解決しない限り、私達人間は神との関係を回復することはできません。苦しみから解放されることはできません。ではどうしたらよいのでしょうか。神様が与えてくださったその解決策がこのイエス・キリストの十字架なのです。神様から離れ、自分勝手に生きてきた人間に対する神様の怒り、裁きを一身に受け止めてくださった。それがこの十字架なのです。その苦しみを私たちに代わって御子イエスに受けさせる。聖書はこれが神の愛なのだを教えています。もしキリストをまだ信じておらず、苦しみの人生を歩んでおられる方がおられるなら、是非信じていただきたいと願います。

二、人間の救いの完成であった

では、このキリストの苦しみは、私たちの救いにどの程度の効力があるのでしょうか。キリストを信じたら、どこからどこまでが赦されて、どこからは自分でやらなければならないのでしょうか。聖書はキリストの苦しみによって

「私たちの救いのすべてが完成されている」と教えています。十字架の上のキリストの言葉です。「完了した。」(19・30) 私たち人間がキリストの苦しみに付け足すものは何もありません。人間の行いや努力など、救われるために私たちが付け加えることのできるものは何もないのです。ヨハネの手紙第一3章1節に、「**私たちが神の子どもと呼ばれるために、一一事実、いま私たちは神の子どもです一一御父はどんなにすばらしい愛を与えてくださったことでしょう。**」とあります。大切な御子を十字架の上で苦しませ、死なせる。こんなに大きな愛、こんなに大きな犠牲に何を付け足すことができるでしょうか。

このキリストの苦しみ、犠牲に感謝して、「**ありがたいなあ、信じます**」と告白するだけで、神の霊である聖霊がうちに入ってください、それからの人生をずっと生きてください、私たちの肉体がいつか老いて、滅びるとしても、私たちの霊と魂は、聖霊とともに神のもとに帰ることができるのです。もし今ここに、まだこの神の愛、キリストの苦しみの犠牲を信じていません、という方がおられるのなら、今朝是非この愛を受け取っていただきたいと願います。

三、目撃者から伝えられている

いつ、誰によって、このような話が作られたのでしょうか。そうではなく、聖

書はキリストの十字架の目撃者からこのことが伝えられていると教えています。35節に「**それを目撃した者があかしをしているのである。そのあかしは真実である。その人が、あなたがたにも信じさせるために、真実を話すということをよく知っているのである。**」とあります。

この目撃者の証言が、二千年間絶えることなくバトンタッチされて、現在に至ります。途中で誰かが作った話ではありません。キリストの苦しみの直接の目撃者からはじまっているのです。今私たちが、この聖書を読み、また聖書の話が語られている教会があるのも、すべて最初の目撃者たちが証言したからです。31節に「**これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、また、あなたがたが信じて、イエスの御名によつていのちを得るためである。**」とあります。聖書が書かれた目的は明確です。ただ研究されるためでも「良いことが書いてあるなあ」と思うためでもありません。この聖書を読んだ人が信じるためなのです。

あなたはキリストの苦しみの姿を見てどう思いますか。「これが神なんて馬鹿馬鹿しい」と嘲るでしょうか。それともあなたの罪のために死んでくださったと信じるでしょうか。どうか信じない者ではなく、信じる者となつてくださるようお願いします。